

ベスト観光スポット



リガ





01 — リガ城

📍 Pils iela 1/3

1201年、ダウガヴァ川(Daugava River)のほとりに新しい都市・リガが建設されました。それから100年余り後、チュートン騎士団の一派であるリヴォニア騎士団が、この地に居を構え始めます。何世紀もの間、リガ城(Riga Castle)はさまざまな戦乱や戦争により、何度も破壊されましたが、その度に再建されてきました。1922年以来、この城はラトビア大統領の住居となっています。ただし、ソビエト連邦統治時代の50年間は、パイオニア・パレス(ソ連邦の施設)がその敷地内に置かれていました。この城は現在、かつての威厳を取り戻すべく、改修工事が行われています。城内のホーリー・スピリット・タワーの上にはラトビア共和国の国旗が常に掲げられており、大統領が国内にいる場合は大統領旗も共に掲げられています。



02 — 三人兄弟

📍 Mazā Pils
iela 17, 19, 21

歴史的な集合住宅である三人兄弟(The Three Brothers)のその名称は、タリンの三人姉妹(Three Sisters of Taiinn) (タリン歴史地区ある倉庫ビル群)とよく似ています。これはリガで最も古い集合住宅です。各棟はそれぞれ異なる世紀に建設されました。ゴシック様式のニッチ(壁龕、くぼみ)と階段状の切妻が特徴的な「オルダー・ブラザー(Older Brother)」と呼ばれるもっとも古い棟は、1490年頃に建設されました。この建物は現在、建築博物館となっており、内部を見学することができます。



03 — ドームスクエア

この広場は、1930年代に古い建物がいくつか取り壊された際に、建物が密集していたヴェツリガ(Old Riga)の中に作られました。広場の端には、1211年頃に建設が始まった印象的なリガ大聖堂(Riga Dome Cathedral)があります。ロマネスクや、ゴシック、バロック、そしてアール・ヌーボーの様式が組み合わったこの大聖堂は、何世紀もかけて現在の姿になりました。

この大聖堂は、1884年に建設されたオルガンで有名です。このオルガンは、後期ロマン派におけるオルガン建造の最高の成果であり、ヨーロッパのどこを探してもこれに匹敵するものを見つけるのは難しいでしょう。この壮大な楽器は、4つのマニュアル(鍵盤)、124の声区、大小6718本の木管と金属管を備えています。そして、ワールドクラスの音楽家たちが、この大聖堂でオルガン・コンサートを開催しているのです。



04 — リガ・ブルス美術館

📍 Doma laukums 6

リガ・ブルス美術館(Art Museum Riga Bourse)は、リガで最も人気のある美術館のひとつです。この美術館は、豪華かつ歴史的な内装と上質な古典芸術作品とが調和し、独特なオーラを醸し出しています。美術館自体は19世紀半ばに建設されました。富と豊かさを象徴するヴェネチア・ルネサンス時代の宮殿の建築様式を模倣しています。この美術館には、アンティークアート・キャビネット、エジプト・キャビネット、ヨーロッパ&アジアアート・ギャラリー、シルバー・キャビネット、ニコライ・リョーリフ絵画ギャラリーの6つの常設展示があります。また、現在では国際的な展示プロジェクトや文化・芸術イベントを定期的に開催しており、教育プログラムや創造的なワークショップなどを実施しています。



05 — リガ歴史航海博物館 📍 Palasta iela 4

この博物館の起源は1773年まで遡ることができます。ラトビア最古の公立博物館であり、ヨーロッパでも最も古いもののひとつです。この博物館は（13世紀から20世紀にかけて建設された）リガ大聖堂の建物群の一部です。この建築群は、教会と、ゴシック様式の十字アーチ型回廊、そして博物館からなります。博物館の中でも特筆すべきは、かつての修道院の跡地に建てられた、18世紀の古典主義様式の円柱ホールです。館内の16の展示ホールでは、800年以上にわたるリガ市の歴史をたどり、航海の歴史と伝統について学ぶことができます。



06 — 火薬塔 📍 Smilšu iela 20

この塔の歴史は1330年に遡ります。かつてリガの城壁を形成していた28の塔のうち、唯一保存されている塔です。現在の火薬塔(Powder Tower)という名の由来としては、16世紀に火薬が貯蔵されていたという説や、11門の大砲が同時に発射されたときの火薬の煙が耐え難かったからという説があります。1919年以来、ラトビア戦争博物館がこの塔の中に設置されています。1937年にはさらに建物が増築され、現在の大部分が増築部分で行われています。



07 — 自由記念碑

ラトビアの独立と、自由、そして国民の団結を象徴する自由の記念碑(Freedom Monument)は、1935年11月18日に除幕されました。この記念碑はすべて国民からの寄付によって建てられています。第一共和国独立の際の、ラトビアの人々の反応はすさまじく、合計で約300万ラツツが寄付されました。この記念碑は、ラトビア独立のための戦いで亡くなった兵士たちに捧げられたものであり、13の彫刻と浅浮き彫りは、ラトビアの歴史と文化の象徴を描いています。



08 — リーヴ広場

リーヴ広場(Livu Square)は第二次世界大戦後、8つの通りが合流する場所に作られました。マイスタル通り(Meistaru Street)ある18世紀に建てられた興味深い集合住宅は、17世紀にその重要性を失ったリガの旧防衛壁の隣に位置しています。広場の隣には、19世紀後半に建てられた豪華なチューダー様式のグレートギルド(Great Guild) (商人協会) と、スモールギルド(Small Guild) (職人協会)、そしてロシア国外では最古のロシア演劇劇場であるミハイル・チェーホフ・リガ・ロシア劇場(Mikhail Chekhov's Riga Russian Theater)があります。広場の中央には花壇と舗道が波状に作られており、これは18世紀までここを流れていたリゼネ川(Rīdzene River)を象徴しています。リガという都市名由来は、リゼネ川の名前からきています。



09 — 市庁舎広場

市庁舎広場(Town Hall Square)は、何世紀にもわたってリガの代表的な交易の場でした。第二次世界大戦中、この広場と歴史的建造物は破壊されましたが、現在までにその多くは完全に修復されています。中庭の中心的建物である市庁舎は2003年に再建され、現在はリガ市議会(市役所)が置かれています。広場の中央には、正義と街の独立を象徴する聖ローランド(St Roland)像が鎮座しています。ダウガヴァ川を見下ろすこの広場には、ラトビア占領博物館(Museum of the Occupation of Latvia)もあります。1993年に設立されたこの博物館は、1940年から1991年までの間に、さまざまな勢力に占領され続けたラトビアの国家と、国民、そして国土の物語を伝えています。



10 — ブラックヘッドの会館 📍 Rātslaukums 7

ブラックヘッドの会館(House of the Black Heads)は、1334年にリガのさまざまな公的組織の集会所として建設されました。この建物は当時、市内で最も豪華かつ格式の高い建物でした。15世紀末には、未婚の若い商人と、金細工師、そして船頭の集まりであるブラック・ヘッズ(The Black Heads)がこの建物の借主となります。残念ながら、この建物は第二次世界大戦中に破壊されてしまいました。その後、1999年に再建され、かつての栄光を取り戻しています。今日、この建物を訪れば、素晴らしいファサード建築、新しく建てられたホール、パンケット、そして当時のまま保存されている地下室(セラー)など、何世紀にもわたる歴史の旅を楽しむことができます。



11 — 聖ペテロ教会 📍 Reformācijas laukums 1

聖ペテロ教会(St Peter's Church)が初めて文献に登場するのは1209年のことです。15世紀、教会は大幅に拡張され、独特のゴシック様式の外観になりました。リガのシンボルのひとつである、バロック様式の尖塔は何世紀にもわたって特に落雷の被害を、幾度となく一なんと、6回も一受けてきました。この、聖ペテロ教会の塔は、第二次世界大戦まではヨーロッパで最も高い木造の塔でした。第二次世界大戦中に教会が全焼したため、現在の塔は再建されたものです。1973年に最後の改築工事が完了すると、教会の塔にエレベーターが設置されました。このエレベーターに乗るとパノラマ式のプラットフォームに行くことができ、そこからは旧市街の赤い屋根群とダウガヴァ川の良い眺めが楽しめます。



12 — 修道院の中庭

修道院の中庭(Convent Courtyard)は街の最も古い地区にあります。当初は、剣の兄弟騎士団(Order of the Brothers of the Sword)の城がこの地にありました。この城は13世紀に建てられましたが、同世紀末に壊されています。「修道院の中庭」という名前は、14世紀にこの地に定住した聖霊修道会(Convent of the Holy Spirit)に由来します。現在、修道院の中庭には「リガ磁器博物館(Riga Porcelain Museum)」があり、ここではリガの磁器生産の歴史を学ぶことができます。中庭のスカルヌ通り(Skārņu Street)側の「装飾芸術・デザイン博物館(The Museum of Decorative Arts and Design)」では、ラトビアを代表する装飾芸術とデザイン芸術の作品が展示されています。



13 — ラトビア国立歌劇場

📍 Aspazijas bulvāris 3

ラトビアが誇る音楽と文化の殿堂、ラトビア国立歌劇場(Latvian National Opera)は運河のほとりにあります。元々は、1863年にリガ・ドイツ劇場(Riga German Theater)として建てられました。この印象的な建物には、「芸術の殿堂」に対する19世紀前半のヨーロッパの伝統的な考え方が反映されています。オペラホールは音響効果に優れており、観客は世界一流のオペラや、バレエ、各種コンサートを楽しむことができます。ラトビア国立オペラ・バレエ団(The Latvian National Opera and Ballet)は、古典的かつロマンティックなオペラやバレエの持つ伝統的な価値観を尊重する一方で、現代的な舞台芸術にも積極的に取り組んでいます。



14 — アール・ヌーヴォー建築群

📍 Alberta, Elizabetes iela

20世紀初頭にヨーロッパに浸透した新たな芸術スタイルは、ここリガで特に広まり、表現を深めていきました。リガでは1898年～1915年までが、アール・ヌーヴォー(Art Nouveau)の時代とされます。アール・ヌーヴォーの発展は、リガの歴史にかつてない経済的繁栄の時期と重なりました。この時期には、リガ中心部の建物の約1/3がこの様式で建設され、リガはヨーロッパでも有数のアール・ヌーヴォー建築の街となったのです。この様式の著名な建物の多くが、エリザベテス通り(Elizabetes iela)とアルバータ通り(Alberta iela)周辺にあります。リガ中心部の他の多くのエリアでも壮大な建物を見ることができます。ラトビア出身の有名なアール・ヌーヴォー様式の建築家には、コンスタンティン・ペークシェンス(Konstantīns Pēkšēns)や、ミハイル・エイゼンシュテインス(Mihails Eizenšteins)、そしてエイゼンシュテインス(Eižens Laube)などがいます。



15 — ラトビア国立美術館

📍 Jaņa Rozentāla laukums 1

この美術館は1905年に建設されました。バルト三国で初めて美術館としてのニーズに合わせて設計された建物です。ラトビア国立美術館(Latvian National Museum of Art)の展示は、18世紀半ばから現代までのラトビア美術の歴史を知る上で重要な洞察を与えてくれます。主に20世紀の美術の発展に焦点が当てられています。この美術館のコレクションは、ラトビアやバルト諸国、そしてロシアの52,000人以上の画家や彫刻家の作品で構成されています。2016年には大規模な修復作業と地下増築工事が行われました。また、この美術館は文化・教育センターとして、定期的に美術展や、教育活動、そして文化イベントも開催しています。



16 — キリスト降誕大聖堂

📍 Brīvības bulvāris 23

キリスト降誕大聖堂(Cathedral of the Nativity of Christ)はリガ最大の正教会です。教会の内装は非常に豪華かつ芸術的な豊かさがあり、壁は初期キリスト教の装飾が施された、ビザンチン様式のフレスコ画で飾られています。ソ連統治時代、この大聖堂はプラネタリウムとカフェに姿を変えていましたが、2000年に再奉納され、再び正教会の定期礼拝が行われる聖なる建物として象徴的な存在となりました。



17 — ベルク・バザール

📍 Elizabetes iela
between K. Barona iela
and Marijas iela

エレガントなベルク・バザール(Bergs Bazaar)は歴史的なショッピングアーケードで、歩行者用道路との複合施設でもあります。起業家クリスタプス・ベルク(Kristaps Bergs)によって1887年～1900年に建設されました。この地区は、市内で最初の燃料ポンプや最初の下水道・上水道など、いくつかの革新的技術によって、短期間のうちに市の重要な一角を占めるようになりました。ベルク・バザールを訪れる人は、多くの小さなブティックでの買い物や、地元の人のお気に入りのレストランやカフェ、都心の静かな憩いの場の散策を楽しむことができます。



18 — リガ中央市場

リガ中央市場(Riga Central Market)は、ヨーロッパで最大かつ最古の市場のひとつです。食品市場のニーズの高まりに合わせて、2つの歴史的なツェッペリン格納庫の跡地に、5つの棟が作られました。1930年以降、来場者の受入をはじめと、ヨーロッパで最も近代的かつ大規模な市場として知られるようになりました。現在、リガ中央市場は非常にカラフルで、地元の人にも観光客にも非常に人気があります。地元の生産者による幅広い商品のラインナップと、歴史的な雰囲気、そして味や音が、市場を訪れるすべての人を楽しませる特別な空間を作り出しています。



Photo: Reinis Hofmanis

19 — ラトビア国立図書館

📍 Mūkusalas iela 3

旧市街の反対側、ダウガヴァ川の左岸には、ラトビアで最も重要な文化的・科学的建造物のひとつであるラトビア国立図書館(National Library of Latvia)の新館が建っています。その外観の表現には、ラトビアの有名な戯曲『黄金の馬』(Zelta Zirgs)へのメタファーや言及が含まれており、ガラスの山や象徴的な光の城(Castle of Light)が描かれています。この国立図書館では、さまざまなテーマに分かれた閲覧室を訪れることができます。書籍や、定期刊行物、そしてオーディオ・映像の中には非常に貴重なものもあります。この図書館は、従来の図書館機能に加え、文化情報センターの役割も担っており、会議や、フェスティバル、さまざまなテーマの展示会が開催されています。



20 — アゲンスカルンス市場

📍 Nometņu iela 64

1898年にオープンしたアゲンスカルンス市場(Agenskalns Market)は、この近隣で最大かつ最古の市場で、国の文化財に指定されています。この市場の歴史的パビリオンは、2018年から2022年にかけて大規模な改修工事が行われました。改装の間もその歴史的な特徴は保たれ続け、内装は本来の威厳を取り戻しました。リニューアルオープンしたパビリオンの1階では、農家や家族規模の生産者が、新鮮な野菜や、ベリー類、果物、乳製品、肉類、その他多くの美味しくてユニークな商品を来場者に提供しています。2階では、市場の雰囲気の中で出来立ての食事を楽しんだり、お酒を飲んだりすることができます。



21 — キープサラ島

キープサラ島(Kipsala Island)は、ズンダ運河(Zunda Canal)とダウガヴァ川の間位置しています。島の面積は約200ヘクタールで、長さは2.7キロ、幅は500メートルです。歴史的に、この島の住民の日常は、主に海とダウガヴァ川にかかわりがあるものでした。第二次世界大戦中、何十人の命を救ったジャニス・リプケ(Zanis Lipke)もかつてこの島に住んでいました。ジャニス・リプケ記念館(The Žanis Lipke Memorial)(Mazais Balasta dambis 8)はキープサラ島の狭い通りの間に隠れるように建っています。この記念館は、戦時中に救出されたユダヤ人が身を隠した環境を象徴的に再現しています。この禁欲的な木造建築物は、まるで役目を終えて陸に引き揚げられ、ひっくり返された渡し船のような見えています。



22 — カルンチエマ・クォーター

 Kalnciema
iela 35, 37

魅力的なカルンチエマ・クォーターはパールダウガヴァ(Pārdaugava)にあります。カルンチエマ通り(Kalnciema iela)とメルンシラ通り(Melnšila iela)の交差点にあるこの地区の改修された木造建築群は、後期ヨーロッパ古典主義の19世紀木造建築の遺産です。この地区の木造建築の改修は、2001年に民間主導で始まりました。現在は、小さなリング園のある中庭を囲む5つの復元された木造建築を見学したり、ギャラリーで美術展を楽しんだり、ワイン・カフェでのんびり午後を過したりすることができます。土曜日には、カルンチエマ・クォーターでウィークリーフェアが開催されており、美術展や、家族・子ども向けイベント、ワークショップが定期的に開催されており、夏には野外音楽コンサートも開かれます。



23 — リガ動物園

 Meža
prospekts 1

リガ動物園(Riga Zoo)は、1912年に開園しました。この動物園は、市内で最も緑豊かな湖畔の松林地帯・メジャパークス(Mežaparks)地区にあります。この動物園には、さまざまな大陸からやってきた3,000頭以上の動物が暮らしています。通年営業しており、家族で休日を過ごすには最適な場所です。この動物園は、訪れるたびに何らかの驚きや新しい発見があるでしょう。夏は理想的なレジャーやピクニックの場となり、冬にはリガ動物園ウィンターナイトが開催されます。

リガ観光情報センター(Riga Tourism Information Centre)

Rātslaukums 6, 電話番号: + 371 67037900

営業時間: 10:00 - 18:00

travel@riga.lv

リガ投資観光公社(Riga Investment and Tourism Agency)

LiveRiga.com/visit

写真:
ラトビア投資開発公社観光局(Latvian Investment and Development Agency (LIAA) Tourism Department)およびリガ投資観光公社(Riga Investment and Tourism Agency)のアーカイブより。

2024年10月

[LiveRiga.com/visit](https://www.liveriga.com/visit)

